

The United Nations Report



国際連合日本政府代表部
PERMANENT MISSION OF JAPAN
TO THE UNITED NATIONS



日本の代表団とウクライナの代表団で一緒にCSW70に参加します！

CSWの正式な活動が始まる前日、この日はすべての参加者がPASSを受け取りました。



CSW 70が始まりました！
国連本部の入口にはマンデラさんの
銅像がお迎えしてくれます。

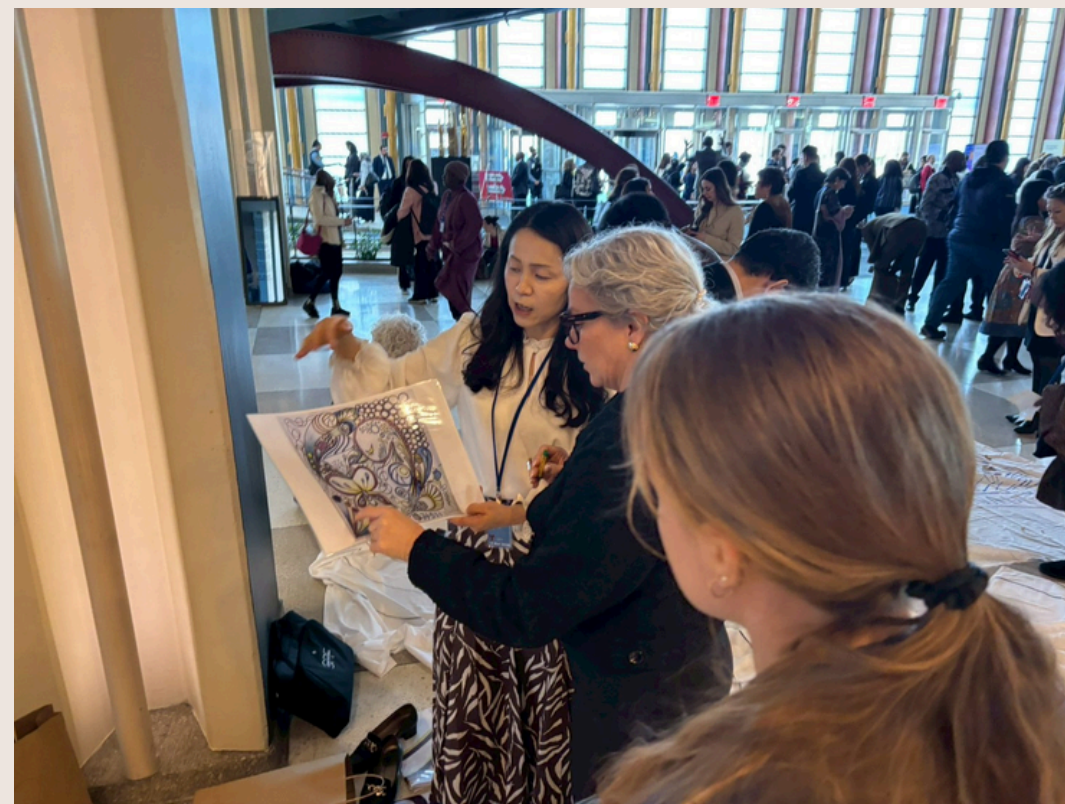


UN CSW 70 Opening Ceremony

世界中からNGOの女性リーダーたちが集まり、それぞれの国や地域で向き合っている課題や経験、そして未来への希望を持ち寄っています。



会場では、さまざまな言語が飛び交い、多様な文化や背景を持つ人々が出会い、対話が生まれています。



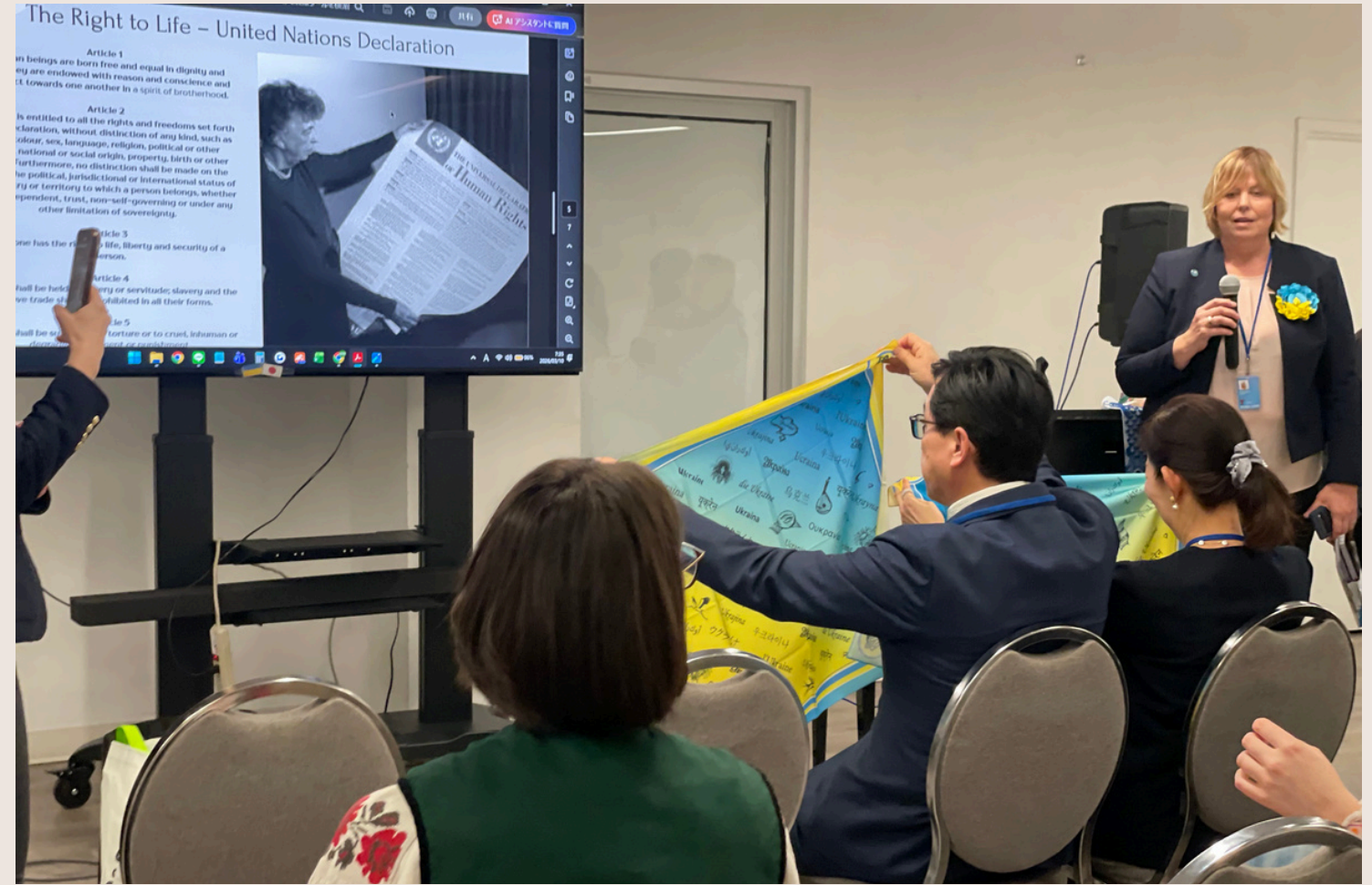
それぞれの活動や思いが重なり合いながら、より良い社会を目指すための新しいつながりやアイデアが少しずつ形になっていく場でもあります。



ここで交わされる一つ一つの出会いと対話が、これからの世界をつくる小さな一歩になります。

この期間は国連会場の周りで行われるたくさんのイベントが行われます。
私たちは日系人会館で、ウクライナの女性たちとの平和会議を開催しました。





ICAJapanのメンバーはそれぞれ平和のスピーチを行いました。ウクライナ団体の代表であるSvitlana氏は、ロシア・ウクライナ戦争の経緯や、ウクライナの女性たちの物語について紹介してくれました。また、ポーランドの人道支援活動家で平和大使でもあるAngelika Jarosławska氏は、自身が制作した平和の絵本について話し本を日本の代表団に寄贈しました。

対米進出企業のSDGs戦略手帳

67

日本とウクライナ女性団が活動交流会

国連女性デー会議

国連女性の地位委員会(CSW70)が開幕した3月9日の夜、ニューヨーク市内で日本の女性団体ICAJAPANとウクライナ女性団による交流会と活動報告会が開催された。国連本部では、世界各国の政

府代表や市民団体が集まり、女性の権利やジェンダー平等について議論するイベントが連日行われている。

下での女性支援活動についてスライドを用いて説明を行った。戦争の経過を示す資料や映像も紹介され、参加者は静かに耳を傾けていた。「私達は負けない。だ

く、世界各国の女性との連帯団結力が大事」とアピ

ウクライナ女性団 スヴィトラナ代表が、ロシアの侵攻以降続く戦争



ルした。さらに「ウクライナの女性たちの声を世界に伝え、国際社会との新たな連携を築くことが使命。戦争の中でも女性たちが連帯し、平和につながる解決策を模索していく」と語った。文化交流の時間には、ウクライナの民族衣装を身につけた女性たちが登場し、平和と女性の連帯の重要性について語った。

同氏が進める「One Mine One Life」活動を紹介しウクライナでの地雷問題の危機について発信した。



われた。参加者の一人は「戦争や社会問題の中でも女性が声を上げ続けることが、社会を変える力になる」と語った。

会議の活動はI現地の日系新聞で掲載されました。
 ウクライナの女性は、私達は負けない。しかし、世界格好の女性との連携団結が重要と語った。
 日本からは、日本からできることを、積極的に行い世界の女性と連携していく必要があると伝えました。



ウクライナの代表とともに、日本の国連代表本部を訪問しました。

河原公使と対談し、ウクライナの現状と日本の支援の考えなど多くの意見を交換しました。日本政府と丁寧に互いに顔を合わせ、目を見て言葉を交わし対話をするすることで、平和への歩みの為の連携が深まることを強く願っています。



NGO CSW NY 70 Forum Reception

NGO CSW の主催の祝賀会が行われました。

祝賀会ではナショナルウエアを装い、ダンスを踊ります。



NGO CSW の
プレジデントと対話



日本代表団は今年もソーラン節を踊って祝賀会を盛り上げました。みんな一緒に踊って会場は一つになり拍手が沸き起こりました。



Youth Voices For Global Justice:

NGO CSW
FORUM 70

IN-PERSON & VIRTUAL



WomenNC



Yalda Bulorchi



Caroline Joo



Chalina Morgan-Lopez



Kyana Rezaian



Nina Salamatova



Noelle Smith

YOUTH VOICES FOR GLOBAL JUSTICE: BRIDGING THE UNITED STATES, IRAN, AND UKRAINE

MODERATED BY


Dr. Wendee Wechsberg
Principal Researcher Emerita,
RTI International



DISCUSSING

This event brings together young leaders from the United States, Iran, and Ukraine to examine the state of women's rights, highlight the role of youth in advancing justice, and confront the realities of authoritarianism and war. The panel will show how youth activism can drive peace, democracy, and gender equality across borders.

 Wednesday, March 11, 2026

 10:30 AM - 12:30 PM EDT

 CCUN 10th Floor

Virtual via NGO CSW Forum & Facebook Live

 LIVE www.facebook.com/WomenNC

異なる国から来た若い女性たちが、それぞれの現場での経験から出発し、「正義」がそれぞれの社会でどのような姿をしているのかをスピーカーがプレゼンテーションしました。

Ukraine から来た Nina は、戦争下の日常について語りました。空襲警報、停電、そしてインフラが破壊された環境の中でも、生徒たちは地下室で授業を続けています。彼女は一つの信念を示しました—
—平和は沈黙からではなく、対話から生まれる。
「対話の日」という取り組みを通して、若者が紛争の被害者から、平和を促進する行動者へと変わっていくことを願っています。



また Iran の議論では、講者が童婚の問題は単なる文化的伝統ではなく、法律と政治体制によって生み出された社会的な被害であると指摘しました。法律が例外条項を認めるとき、強制的な童婚は制度の中で正当化されてしまいます。彼女はまた、女性の権利は権力者から与えられる恩恵ではなく、本来民主制度の中に存在すべき権利であると強調しました。

女性特有の悲劇：処刑された女性の多くは、DVや強制結婚に耐えかねて夫を殺害した「自衛」の結果であるケースが目立ちます。しかし、法は彼女たちを守らず、逆に「殺人者」として死刑を執行します。

・「児童婚」という、国が認めた暴力：イランでは、法律で13歳の少女の結婚が認められています。家族が認めれば、10歳未満でも婚姻させられます。年間50万～60万人もの子供たちが、夢を見る代わりに強制的に結婚させられています。絶望した少女たちが自ら命を絶つ悲劇が、毎日のように繰り返されています。こんな事実を信じられますか？「私たちは、かつての王様に戻りたいわけでも、今の宗教指導者に従いたいわけでもない。ただ、自分の服を自分で選び、自分の人生を自分で決められる『普通の国』になりたいだけです。」



今、イランの最も若い少女たちは、抑圧的な政権の怒りと暴力に直面しています。最近、女子校がミサイル攻撃の標的となり、168人の生徒14人の教師が被害にあいました。彼女たちは教室で未来を夢見ていた学生たちでした。「外国がミサイルを撃ち込むことは助けになりません。それは私たちの家を壊し、独裁者に弾圧の口実を与えるだけです。私たちが求めているのは、私たちの手で、この体制を終わらせるための連帯です。」「上からの贈り物」の権利なんていらない。真の平等と尊厳を。爆弾が女性を解放することはなく、ミサイルが民主主義を築くこともありません。

Justice For Women:

NGO CSW
FORUM 70

IN-PERSON & VIRTUAL

WomenNC

JUSTICE FOR WOMEN: FROM RESISTANCE TO ACTION

DISCUSSING

This parallel event brings together frontline women human rights defenders from Iran, Ukraine, Syria and South Sudan. These courageous women stand at the heart of the struggle for justice, often enduring imprisonment, torture, persecution, and exile. Each panelist will share a successful “good practice” demonstrating how women in her country resist oppression and demand accountability, even when justice systems fail.

MODERATED BY

Susan O'Malley
IFBPW UN Representative,
NGO CSW/NY



Thursday, March 12, 2026

04:30 PM - 6 PM EDT

CCUN 10th Floor



Svitlana Salamatova
Founder & President,
NGO Geopolitical Alliance of Women



Mariam Jalabi
Founding Member,
Syrian Women's Political Movement



Beth Dehghan
Founder & President,
WomenNC



Diing Magot
Investigative Journalist,
Human Rights Activist

Bethは、イランの女性が長期にわたる政治的抑圧の中で、どのように地下運動や社会的抵抗を通じて徐々にリーダーとなったかを語りました

Mariamは、シリアの女性政治活動家が戦争の記憶——命を奪われた子どもや女性たちについて語りました

Svitlanaは、戦火にあるウクライナの幕を開き、メンバーと共に戦火の下での生命の脆さとたくましさを示しました

Diingは、南スーダンとウクライナの文脈において、女性が政治やメディア環境で直面する構造的な困難を見ました。

Virtual via NGO CSW Forum & Facebook Live



www.facebook.com/WomenNC

それぞれの女性の視点の中で、深い問いが浮かび上がります 女性はどのように抵抗から行動へと進むのか？

私たちは、政治における女性の代表数を保障する制度改革を通じて行動できます；コミュニティレベルのアドボカシーから国際的な連携に進むこともできます；もちろん、女性同士が互いに支え、導くこともできます。



しかし、さらに重要なのは、これらのストーリーをこの会議室の外に持ち出し、それらを私たちが思考し、対話し、行動する出発点にすることです。

「平和は沈黙からではなく、
対話から生まれる」

Artisan Fair:

作品に寄付をして、その寄付がそれぞれのNGOの活動を支える仕組みになっています。ICA Japanはウクライナのブースをサポートしました。

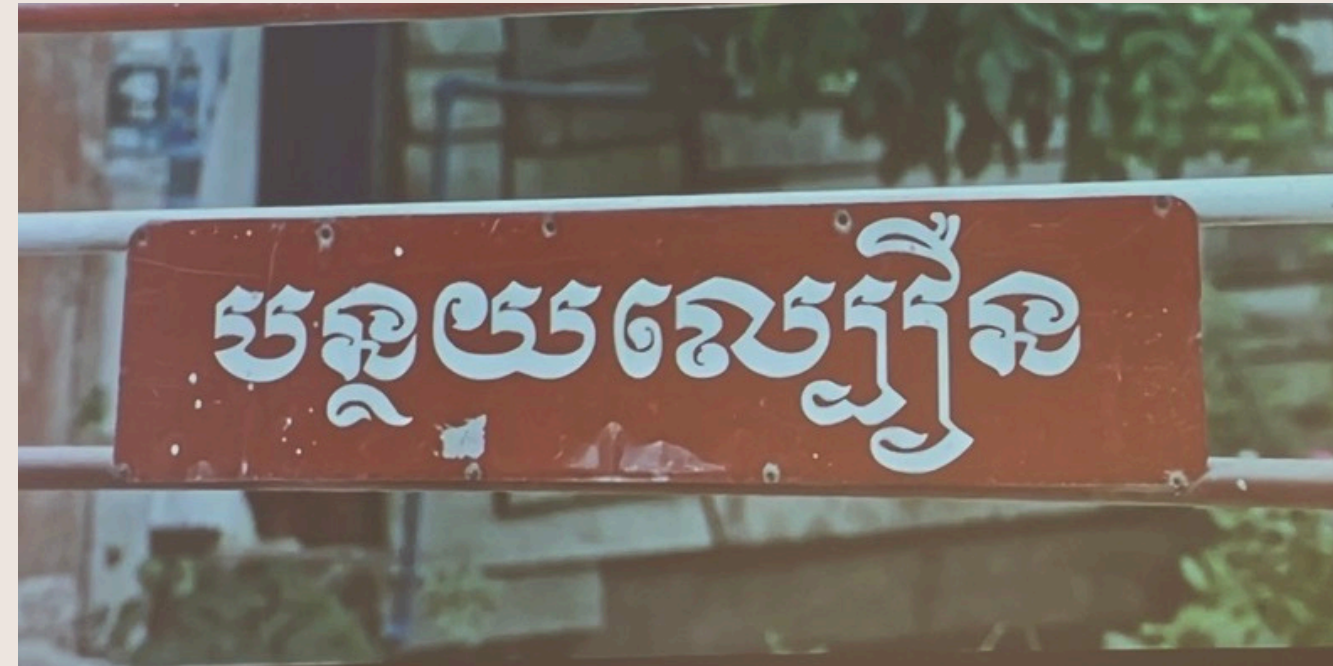


また、日本の大きなアートプロジェクトの手伝いで私たちは「平和」を象徴する絵を、色々な国の方に描いてもらいそれを合わせると一枚の絵になるプロジェクトの為に30ヶ国の方に色を塗ってもらいました





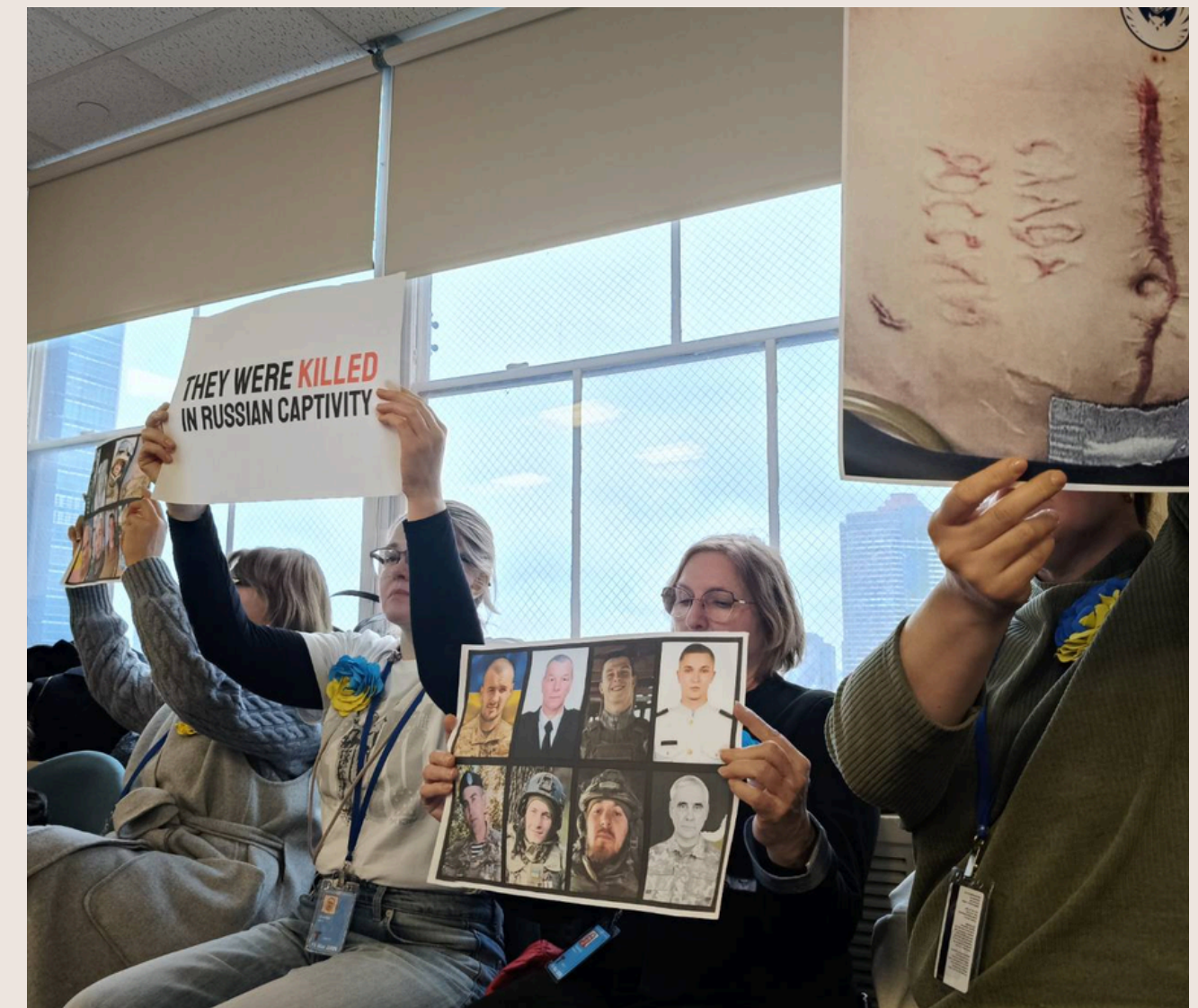
Women Leaders in Peacebuilding:



人道活動家／平和大使のアンジェリカ・ヤロスワフスカ＝サピエガ氏は、「一つの地雷を除去することが一つの命を救う」と訴えた。ドキュメンタリープロジェクト「One Mine One Life」提唱者であり、国際社会への発信を続けている。ドキュメンタリー《Echoes in Silence》を通して、私たちは元アメリカ軍将校が Cambodia で地雷除去活動を支援し、学校を建設してきた経験を語りました。

Ukraine から来た代表団は、前線での経験を伝えてくれました。

「今回のCSW70は、日本のICAインターナショナル文化交流協会との協力による9回目の代表団参加です。私たちの使命は、現実を自分たちの声で伝え、国際社会との新たな連携を築くことです。戦争の中で、私たちの生きる権利は毎日脅かされています。しかし、それでも私たちは声を上げ続けます」「私たちは爆撃の中で生活し、子どもたちは地下で学び、家族は引き裂かれています。それでも私たちは生きることをあきらめません」「私たちは強い。しかし、孤立しては未来は守れません。世界中の女性との連帯が、いま最も必要なのです」



「戦争をするのは男たちです。女性は戦争を望みません。しかし、その影響を最も深く受けるのは女性と子どもたちです」CSW70で多くの悲しい言葉を聞きました。

そして、子どもたちから、戦争は始めません。日本から子ども達の幸せの象徴である鯉のぼりを広げて日本代表団のSumikoは訴えました。

だからこそ子どもたちの未来を守るのは、私たち大人の責任です。

すべての子どもたちが夢をあきらめない社会をつくる！子どもたちの未来を守るために、日本からできることを私たち自身がより積極的に行い、世界の女性と連帯していく必要があります。



戦争の痕跡は、時間によって簡単に癒されるものではありません。

ほんの一瞬の出来事であっても、その傷は長く土地と人々の人生に残り続けます。

戦争は命を奪うだけでなく、深い心理的な傷も残します。

しかし、現実であり重みのある数々の物語の中には、もう一つの力も見えてきます。

女性のリーダーシップ、草の根の組織、そして国境を越えた協力が、戦争によって引き裂かれた社会を少しずつ修復しているのです。「女性が声を上げ続けること自体が、社会を変える力になる」どんな困難の中でも声を上げ続けること自体が、社会を動かす力になっている。



対米進出企業のSDGs戦略手帳

67

日本とウクライナ女性団が活動交流会

国連女性デー会議

国連女性の地位委員会(CSW70)が開幕した3月9日の夜、ニューヨーク市内で日本の女性団体ICAJAPANとウクライナ女性団による交流会と活動報告会が開催された。国連本部では、世界各国の政

下での女性支援活動についてスライドを用いて説明を行った。戦争の経過を示す資料や映像も紹介され、参加者は静かに耳を傾けていた。「私達は負けない。だけど、世界各国の女性との連帯団結力が大事」とアピ

府代表や市民団体が集まり、女性の権利やジェンダー平等について議論するイベントが連日行われている。



ールした。さらに「ウクライナの女性たちの声を世界に伝え、国際社会との新たな連携を築くことが使命。戦争の中でも女性たちが連帯し、平和につながる解決策を模索していく」と語った。文化交流の時間には、ウクライナの民族衣装を身につけた女性たちが登壇し、平和と女性の連帯の重要性について語った。



人道支援活動家で平和大使のアンジェリカ・サビエハ氏著書や活動を通じて地雷問題の現状を国際社会に伝えていく。「一つの地雷を除去することが一つの命を救う」という理念のもと人道支援活動を展開。会場では、

参加者の声
会場には日本、ウクライナ、欧米など多国籍の参加者が集まり、女性の権利、教育、平和について意見交換が行



同氏が進める「One Mine One Life」活動を紹介しウクライナでの地雷問題の危機について発信した。



国連の国際女性デー(CSW70)期間中、ニューヨークでは各国NGOによるフォーラム分科会が数多く開

われた。参加者の一人は「戦争や社会問題の中でも女性が声を上げ続けることが、社会を変える力になる」と語った。

The Asahi Shimbun

SDGs ACTION!



ーナショナル文化交流協会 (ICA Japan) 理事長・鈴木澄子氏は、「国境を越えて女性たちがつながり、平和と社会の未来を共に考えることがCSWの大きな意義。日本からできることを私たち自身がより積極的に行い、世界の女性と連帯していく必要がある」と述べた。



ICAインターナショナル文化交流協会の活動が朝日新聞SDGs ACTION、ニューヨークの日系新聞、週刊NYにも掲載されました。

<https://www.asahi.com/sdgs/article/16457193>

Thank you ! !

